

# 令和7年度 第2回 飯田市地域公共交通改善市民会議 【会議記録】

日時：令和7年12月10日（水）10時00分～10時50分  
場所：飯田市役所C311・C312・C313会議室

## ■出席32名 欠席5名

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

### (1) 令和7年度上半期輸送実績（資料p3-p5）

事務局より資料について説明。

運行事業者から説明

→（信南交通）

上半期利用実績として、駒場線は昨年に比べ、通学便は100～103%と増加したものの、昼の便は93～94%と落ち込みがみられる。阿島線は通学便が昨年より大幅の増加、循環線は前年横ばいとなった。駒場線については通学利用が中心となっているため、来年度以降の実績が不透明なところがある。

～2点の報告事項～

1. 県の補助金を使って駒場線のバス停留所の看板を付け替え予定。阿島線、循環線も順次対応していく。
2. 昼神温泉の発券所の廃止。スマートフォンで予約するお客様が増えたため。

→（長野県タクシー協会下伊那支部）

基本的にリピーターの利用が多く、新規顧客が増えた実感はない。路線によっては、利用者が減ってきている。日中の高齢者が通院するために利用することが多い。

現在通常タクシーの繁忙期となり、乗合タクシーの到着が遅れることがある。そのため、お客様の速やかな乗車に協力いただきたい。

### (2) 令和7年度事業の進捗（資料p6-p7）

事務局より説明。

#### ■質疑応答■

◎（南信州広域連合）バスロケーションサービス『くるら』の宣伝を広報紙等で見たが、各バス停留所には案内などあるか。

→（事務局）小さいものとなるが各バス停留所に『くるら』の二次元コードを貼付している。

## 4 協議事項

### (1) 令和8年度の運行について

#### ① 広域バス遠山郷線の増便（資料p8）

事務局より説明。原案のとおり承認。

#### ■質疑応答■

◎（南信州広域連合）令和8年度の通学利用予定者数は20名ほどだが、以降の利用予定者数はどうか。

- ▶(事務局)学校の受け入れ数によるところとなるが、教育委員会からは規模の大きな変更はないものとの認識でいる。
- ◎(南信州広域連合)今回の増便について、通学利用のため、保護者の方がバス停留所に送迎をして、利用されると想定しているのか。
- ▶(事務局)現在の遠山郷線と違い、今回の増便の経路は小規模特認校の通学に対応するため、市役所を経由する。市役所、その他バス停留所でも保護者の送迎があると聞いており、保護者の方にご協力いただき、安全に利用できるよう努めたい。

- ② 乗合タクシー山本西部山麓線の運行エリアの追加等 (資料 p9—p10)  
事務局より説明。原案のとおり承認。

#### ■質疑応答■

- ◎(南信州広域連合)今回運行エリアを変更し、こまんば停留所を追加したこと、市町村をまたいで運行するようになるが、他のエリアでも市町村をまたいで運行する予定はあるか。
  - ▶(事務局)出前講座などを通じて利用者から意見を聞くことがある。今回の運行エリアの変更に関しては、地域からの要望に基づくものであったが、多くの方に利用されるものであるように地元の意見が大事であり、できる限り利用者に配慮できるよう、地域や事業者と連携していきたい。
- ③ 乗合タクシーの予約受付時間の変更 (資料 p11)  
事務局より説明。原案のとおり承認。

#### ■質疑応答■

- ◎(南信州広域連合)早朝の便の予約・利用者はいるのか。
- ▶(事務局)具体的に数字は持っていないが、事業者に確認したところ早朝に予約し利用する方は少ないということで、今回の予約時間変更に至った。

## (2) 地域公共交通確保維持改善事業について

- ① 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価 (資料 p 12—p18)  
② 令和8年度フィーダー補助金認定申請の変更 (資料 p 19)  
事務局より説明。質疑応答での意見を反映させたものを提出することで承認。

#### ■質疑応答■

- ◎(長野運輸支局)乗合タクシー遠山郷高校通学支援線の今後の改善点など、高齢者や新たな利用者についての記入があるが、通学に利用されている便ではないのか。
- ▶(事務局)ご指摘いただいたことを反映させ、訂正する。
- ◎(長野運輸支局)遠山郷線の新たな運行ルートに関しては、申請を伴うため、詳細を教えてほしい。
- ▶(議長)申請に当たっては当事者同士で事前に確認、調整を。

## 5 その他

- ◎(南信州地域振興局)みすずハイウェイバス飯田—長野間の便に関して、令和7年度1日7往復増便している。飯田市には広報紙での周知や、バスの車体のステッカー、チラシ配布などで協力いただいた。昨年度に比べ利用者は増加したが、増便の影響もあり、1便あたりの利用者は十分な増加が感じられなかった。現在は実証運行としての増便だが、今後も飯田—長野間の交通を確保できるよう、協力いただきたい。

## 6 閉 会